



碧南ロータリークラブ週報

第2302回例会 平成18年2月15日(水)

●会長 岡田 超勇 ●幹事 亀山 裕一 ●SAA 長田 豊治

■例会日 毎週水曜日 12:30 ■例会場 碧南商工会議所ホール

■事務局 碧南商工会議所内 〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町90

TEL<0566>41-1100 FAX<0566>48-1100

ホームページ: <http://www.hekinan-rc.jp/>

E-mail: info@hekinan-rc.jp

■会報委員 杉浦昌裕・角谷信二・清澤聰之・岡本明弘

超我の奉仕

2005~2006年度
国際ロータリーのテーマ



● 齊唱

ロータリーソング「今日も楽し」

● 本日のメニュー

和風弁当 大正館

● 本日のお客様

米山奨学生 金 華 氏

会長挨拶



緑の募金に協力



岡田超勇会長



金 華 氏

イタリアで50年ぶりとなります第20回冬季五輪トリノ大会が開催されております。毎日深夜に日本で生放送され、少し寝不足の方がみえるのではないかと思います。冬季五輪のトリノ大会では82ヶ国・地域から選手役員らで約5,000人の人々が参加しております。日本も選手役員合わせて238人が参加をしました。ここで冬季オリンピックについてお話ししたいと思います。

オリンピックの5つの輪は、皆さんご承知の通り、ヨーロッパ、アメリカ、アフリカ、アジア、オセアニアの5大陸の「結合と連帶」を表わしております。しかし、冬季オリンピックは1924年フランスで、第1回が開催された時は、16ヶ国の参加、その国々はヨーロッパと北米からの参加で5輪ではなく2輪であったそうです。日本がアジアで最初に参加したのは第2回のオリンピックです。目覚しい変化を見せたのが、1992年のフランスのアルベールヒル大会です。日本、韓国、中国、北朝鮮で15のメダルを獲得し、アジア勢が一気に躍進をしました。私の記憶の中では、長野大会のスキーのジャンプの大活躍が非常に印象的に残っています。日本選手の活躍を期待しております。

幹事報告

- ・他クラブの例会変更等は別紙幹事報告の通りです。
- ・RI創立100周年に当たる昨年度のRI年次報告書及び来る6月にスウェーデン、デンマークで開催予定の当年度RI第97回年次大会の案内が届いていますので回覧致します。ご覧下さい。



亀山裕一幹事

委員会報告

〈出席奨励委員会〉

総会員数 79名 (内出席免除者 15名) 出席者 65名	
出席対象者 53／64名	出席率 82.80%
欠席者14名(病欠者0名)	前々回修正出席率 96.88%

〈ニコボックス委員会〉

※三週連続出席率100%の場合は記念品を差し上げます。

長田 昌昇君 卓話のスピーカー金華さんを紹介させて頂きます。

杉浦 健次君 奥田雪雄さんにお世話をになりました。

竹中 誠君 昨日、次女に嬉しい知らせが届きました。

卓 話

「日本に留学してよかったです」

米山奨学生 金 華 氏

約5年前の2000年の6月、私は誰にも言えない不安をいっぱいにして、関西空港に着きました。来日その夜から初めての一人暮らし始まりました。不安で、不安で、たまりませんでした。中国で12才から親元を離れ、大学卒業まで、さらに就職後も寮生活でしたが、一人暮らしではありませんでした。5年間以上の留学生活を振り替えて見ると、辛くて寂しい時も少なくありませんでしたが、留学したからこそ得たものは大きいものがあります。まず、自分なりに人間的に成長したのではないかと思います。また、自分が持っていた日本と日本人のイメージと現実は大きな違いがあることにだんだん気付くようになりました。今日は、言葉、習慣、文化の違いから引き起こす失敗や戸惑いや疑問の数々をお話したいと思います。これは、言葉や習慣、文化のどちらがよいか悪いかの指摘ではありません。われわれはそのような違いを否定するのではなく、相互尊重、相互理解を行っていかなければ世の中の平和は問えなくなるではないかということについて、私自身の経験や考えをお話したいと思います。

一、驚いたこと

私の頭の中の日本という国は、どこに行っても高層ビルが立ち並び、人々が込み合っている風景でした。しかし、外を歩く人は少なく、思っていた高層ビルは少なく、一戸建てが多いことはびっくりしました。土地は狭いといっている日本でたくさんの人々は、広々としたところで生活していることには不思議半分うらやましかったです。

次に驚いたことは、学校のキャンパスやレストランや喫茶店での若い女性のタバコを吸っていることでした。多分私の考えは古いかもしれませんが、特に女性が公の場所で喫煙することは女性美を損なうことになると思っていたからです。それは日本人女性（世界で一番優しくて礼儀正しい）というイメージと現実は大きく異なっていたからです。中国も最近女性の喫煙が多くなったそうです。どの国も経済的に裕福になればなるほど人々の喫煙は多くなっていくのではないかと私は思うようになりました。それは、人々のストレスが溜まる社会になっているからであると思います。そのストレスを発散する一つの手段がタバコを吸うことではないでしょうか。

次に、どこに行っても待っている人の行列には唖然としました。特に飲食店で一時間、二時間待ちで食事を楽しむ人に対しては感心しました。また、無言のまま待ちつづける方々にはなんという忍耐力なのだろうと不思議でした。たぶん日本人は列になって待つことが好きかもしれません。

ラーメンやそば、うどんの食べ方には驚きました。来日して半年になったころでした。ラーメン屋でアルバイトをすることになり、営業が始まり、不思議な音が聞こえてきました。なんの音だろうと気になって客席を見た瞬間、目を丸くしました。男女問わず、競い合うように、ラーメンを食べるのではなく「ツルツル」と吸っていたのでした。小さい時からスープや麺類を食べる時、音を出してはいけないと厳しくしつけを受けてきた私はなんと「下品」な食べ方をしているのだろうと一瞬思いました。しかし、お客様が吸ってから「おいしい」「うまい」を口にするのを



金 華 氏

見て実はおいしく食べているのだなあと感じました。また友人にも私のラーメンの食べ方を見て「おいしくない」「口にあわないの」とよく聞かれます。私は日本人のようなラーメンの食べ方ができるのかと家に帰って試してみました。初めはどうしても音が出ませんでした。今はちょっと音は出せるが出し方はうまくありません。3、4歳の子供も上手にラーメンを吸っているのを見てやっぱり民族によって習慣の違いが大きいと思いました。

二. 不思議なこと

1. 病院

日本は病院の営業時間に合わせて診察を受けなければいけないこと、一人の医者が診察から薬の説明まで行っていることには驚きと不安がありました。診察から薬をもらうまでに半日も掛かることには、よほどの場合でない限り病院に行くことを我慢しています。診察するのは数分しかからないが、待つ時間は二時間、三時間になることもあります。また休日や祝日は休業の病院が多いです。人は病気にかかることも平日を選ばなければならぬことかと思いました。また、郵便局や銀行も休みになっているのはちょっと不便かと思いました。毎日仕事を持っている人々はいつ私事を済ませるか疑問が大きいです。中国では仕事中、休暇を取ることは難しく、個人のことは休日に済ませることが多いです。

2. お返し

日本の伝統的習慣、お返しには本当に悩まされたし、ずっと悩んでいくことになると思いました。お世話になった人にお礼をする習慣は中国も日本もあります。しかしお返しは日本人特有の習慣ではないかと思います。中国では私が世話をしたからもらうのは当然であると思うのが普通です。しかし、日本ではお礼をするとすぐお返しがきたり、また必ずいつかはお返しすることが普通みたいです。日本でたくさんの方々にお世話になっています。来日後親しくなった友人（日本人）のご両親は、私の日本での両親みたいな存在です。お正月のお歳暮とかお盆のお中元という形でお世話になっている私から少しでも感謝の気持ちを伝えるために挨拶をすることになります。しかし、必ずそれ以上のお返しがくることには悩みました。

3. 年賀状

日本は普段は連絡をとっていないなくても親戚や友人に年に一回必ずお正月に年賀状を出しています。私も日本に来てからすごく忙しい時もありましたが、必ず出すことにしています。しかし、年賀状のことで悩んだことも何回かありました。日本に来る前と来てからも誰かが亡くなった人に年賀状を送ってはいけないことは知りませんでした。それで、誰かが亡くなったことを知りながら年賀状送ってしまったことがあります。すぐその友人からは優しく喪中知らせと同時に日本にはこのような習慣がありますよ、という内容のはがきが届きました。なんで知らなかったのだろうと何度も自分を責めました。

4. 言葉のあいまい

日本語の「いいです」、「結構です」の言葉の意味への理解には戸惑います。例えば、「お水はいかがですか」「レシートはどうなさいますか」と聞いた時「いいです」「結構です」と返事が返ってくる時「要るか」「要らないか」その人の顔や行動を見て判断しなければならない時が多いです。また友だちの話ですが、日本人のお宅にお邪魔した時に、「コーヒーにしますか」と聞かれた時、「いいです」と答えたら何も出してくれなくて、機嫌を悪くしたことを聞きました。それは中国語の「好」と日本語の「いいです」はまったく同じ意味を表わすものではなかったからです。

5. 手帳

日本人のほとんどは子供（小学生）から大人まで手帳を持って、必ず前もって予定を組む習慣があります。初めは慣れなくて、なぜ一ヶ月前のことを聞いたり、何ヶ月後の予定を決めたりするのだろうと疑問ばかりでした。また私の指導教官は学会に参加するたびに早くは2ヶ月前、遅くとも1ヶ月前までに院生みんなの宿を取ってくれたり、取らせたりしたので理解がいかない

時が多かったです。予定を組んだり、前もって準備しておくのは、できる限り他人に迷惑をかけないように配慮する日本人の習慣が解ってきてからです。ルールを守ったり、約束守ったりすることは当然ですが、人には何が起こるかは予測できないので、一定の融通性も必要であると思ったことが多かったです。

6. 割り勘

日本では誰が誘ったとか、先輩後輩であるとか、先生学生の関係であるとか関係なく食事に行った時は割り勘にすることに理解がいかなかつたというか、不思議でした。中国では誘ったら誘った人が勘定するものだと思うし、お金ある人が負担するのは当然だと思うという習慣から、払ってもらわないのに誘うなという気持ちが大きかったです。

7. あやまる習慣

日本人はとにかく「あやまる」のが大好きみたいです。来日してまもなく、友人からこのように言われたことがあります。とにかく「すみません」「ごめんなさい」を覚えて、何かあった時は忘れないで言ったら大丈夫だから。本当に日本人は常に「ごめんなさい」「すみません」を口にしていることが解ってきました。心から謝るのもあるが、心にないあやまりもよくすることが解りました。中国では本当に悪かった、大きな損害を与えた時こそあやまるという習慣が強いです。それから「頑張ります」もよく言っています。日本人は遅刻をしたり、過ちを犯した時ひたすらあやまることが多い、理由は後にするか言わないのですが、中国ではいっぱいの理由をつけてから最後にあやまるという習慣があります。私は実際にこのことである店の店長に二度と会いたくないぐらい言われたことがあります。「理由はどうでもいい、あなたの親が亡くなったりしたこと以外にバイト休むのは理由にはならない」と言われました。人間だったら誰でも思わぬことが起きるし、急用ができるはずなのに。今考えるとその店長も自分の店のために一所懸命だったのでしょうと思います。

8. 準備中

日本の飲食店などの閉店なのによく「準備中」としてあることを見かけます。普通「準備中」としたらもうすぐ開けると思いませんか。私は、初め、この店夜中にオープンするのだと思い込んだ時がありました。その店は朝まで閉まったままで、後で分かりましたが昼からの営業でした。

9. 断り上手

集団で予定を組む時、自分の予定が入っている場合、お互いに譲らないことがよくみかけます。「都合が悪い」という一言で何も言う必要がなくなることが多いです。また、「ちょっと予定が入りまして」「ちょっとうちのところでは」「ちょっとそれは～」など。

これ以外にも、知らなかつたこと、不思議に思ったこと、理解できなかつたことなど多くありました。まずは理解が必要であり、知っておくべきことだと思うようになりました。どこの国の人でもその国の独特な文化や生活習慣、考え方を持っているのは周知のことです。したがって、自分が持っている習慣、考え方との相違をよくないくつてしまうことは大間違いだと思います。それはその相違について正しく理解することが一番です。私はこのような考え方や日本での経験を、多くの日本語を学んでいる人々、つまり日本語学習者やまだ日本のことや、日本人のことを理解できていない人々に伝えていくことが私の義務ではないかとしみじみ思いました。最後に、日本と中国の人々がお互いの習慣、考え方を理解し、誰のことが悪いのではなく、それをお互い尊重する気持ちで接触していくは平和的で国際交流がうまく行えるのではないかと思うようになりました。日中友好のための掛け橋になることが今の私の使命であると思います。どうか皆さん方のご協力をお願いします。

次回例会案内 平成18年3月1日（水）

卓話「私の好きな事」 会員 榊原 健君